

4 章

地域別構想

1. 地域別構想の役割

地域別構想は、市民が地域のまちづくりに自発的に関わるため、また、地域の特性を踏まえたまちづくりを進めるための構想としての役割を担います。

① 身近な地域のまちづくりへの参画

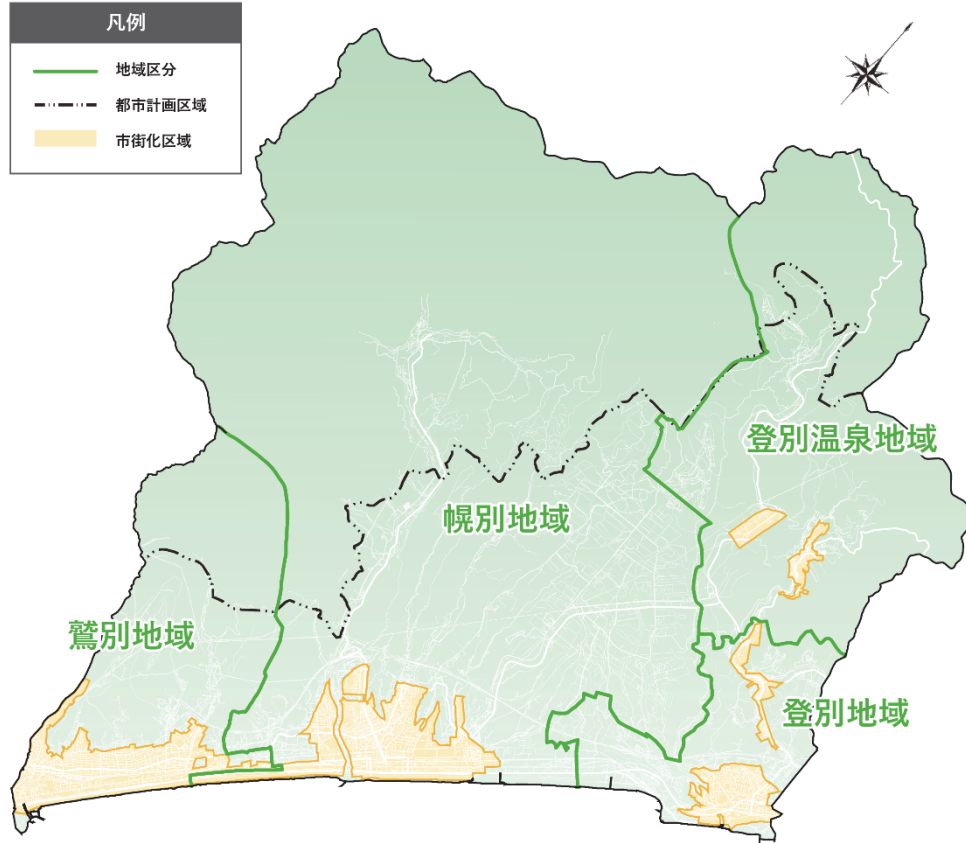
まちづくりを進めるにあたっては、地域住民がまちづくりを身近な問題として関心を高め、将来像を共有し、自発的に関わる必要があります。

② 地域特性を踏まえたまちづくり

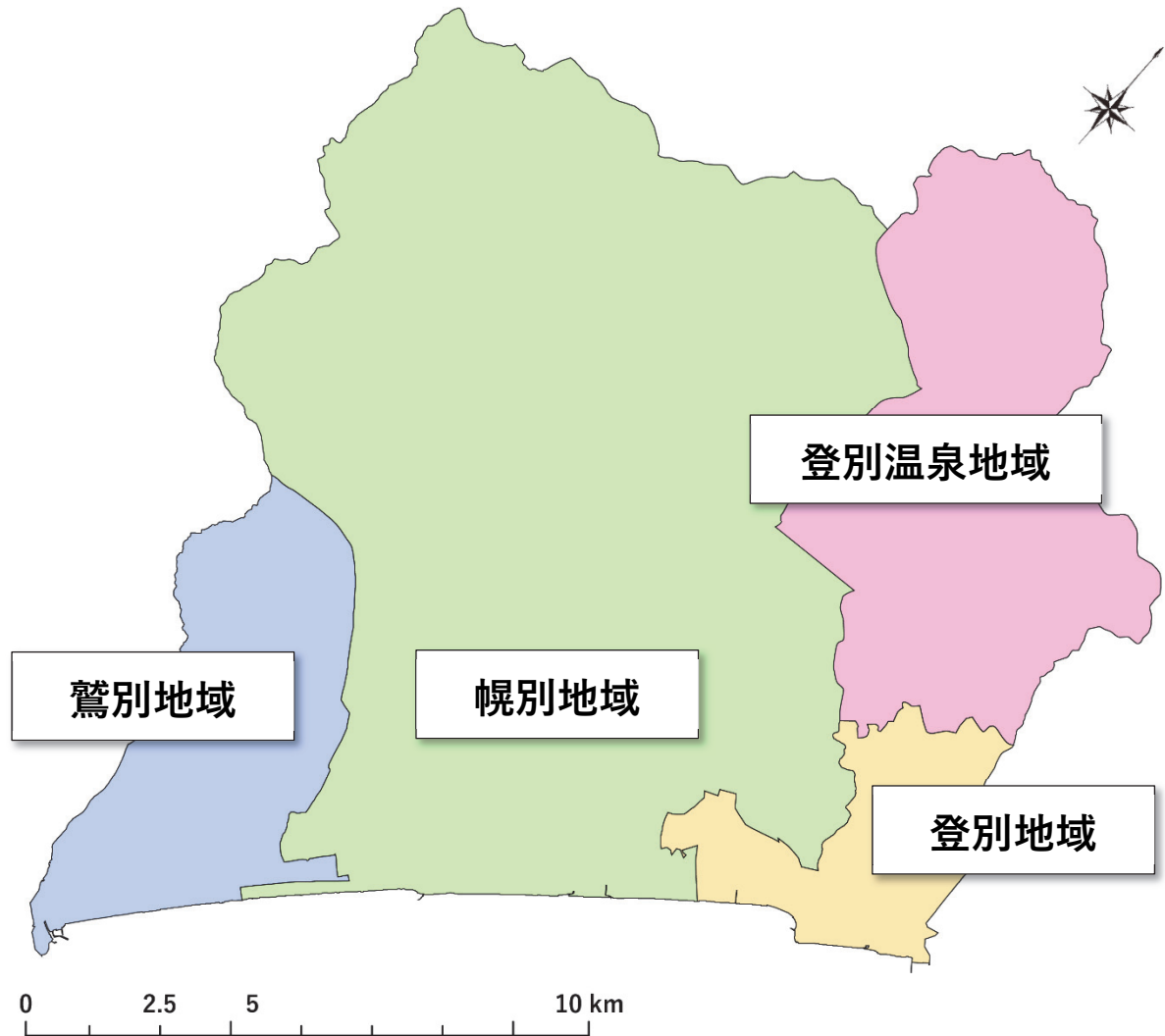
それぞれの地域の歴史や文化、自然などの特性を踏まえて取り組む必要があります。

2. 地域区分

「鷺別地域」「幌別地域」「登別地域」「登別温泉地域」の4地域それぞれについて地域別構想を示します。

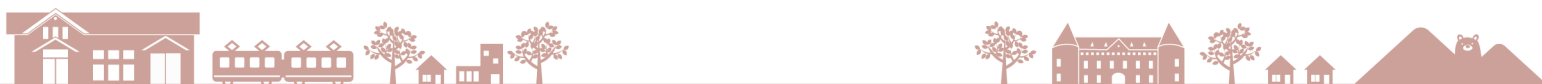


地域区分



地域区分の内訳

鷺別地域	鷺別町、栄町、美園町、上鷺別町、若草町、新生町、富岸町、若山町
幌別地域	幌別町、幸町、新栄町、大和町、中央町、常盤町、柏木町、片倉町、新川町、富士町、千歳町、来馬町、札内町、青葉町、緑町、桜木町、鉾山町、川上町
登別地域	登別本町、登別港町、登別東町、富浦町、中登別町
登別温泉地域	カルルス町、登別温泉町、上登別町



3. 鷺別地域

(1) 地域の特徴と市民の意見

① 地域の特徴

◆地域生活

- 鷺別町・美園町は、古くから住宅地が形成されており、日常生活においては隣接する室蘭市との関わりが深い地域です。
- 土地区画整理事業などにより急速に宅地が開発され、良好な市街地が形成された地域です。
- 道道上登別室蘭線沿いには、多様な店舗が立地しており、商業集積が進んでいる地域です。
- 富岸町・若山町は、小学校や中学校、高等学校、職業訓練校、総合体育館などがあり、文教施設が多い地域です。

◆地域資源

- まちのシンボルとなる亀田記念公園やキウシト湿原のほか、地域のシンボルとなるみどり豊かな鷺別岬があります。
- 桜並木がある鷺別川が地域住民の身近な財産となっています。
- 鷺別川河口では古くから漁業が営まれ、東側には漁港が整備されています。
- 山辺のみどりを身近に感じられる地域です。

② 市民会議における主な意見

- 室蘭市との連携が重要。室蘭市所有の施設との役割分担が必要である。
- 今後は新たな宅地造成を図るよりも、空き家を利用して世代間が混ざり合って暮らせる地域づくりが必要。
- 漁港付近を公園化することが望ましい。
- 線路の存在によって、災害時の避難経路の確保が困難であり、地域が分断されている。
- 市民が集い、活動できる場所の提供が必要である。



(2) 鷺別地域のまちづくりの取組

I. 地域の生活や交流を支える拠点形成

- 鷺別支所周辺は、人々が気軽に集えるよう、文化や情報発信機能の充実を図ります。
- 道道上登別室蘭線を中心に文教施設や福祉施設の充実を図るとともに、商業施設などの立地を促進します。
- 室蘭市と連続性のある土地利用を図ります。
- 地域コミュニティ施設の整備や既存施設などの活用により、市民が気軽に集える交流の場の充実を図ります。

II. 地域資源の活用

- 鷺別川、富岸川、西富岸川、若草中央公園を『水とみどりの軸』として位置づけ、樹木や草花を植栽します。
- キウシト湿原を含めた周辺の自然環境の保全に努めます。
- 亀田記念公園やキウシト湿原については、自然をテーマにした環境学習やイベントを開催する場として、機能の充実を図ります。
- 海辺の空闲地等は、人々の憩いの場として活用を図るとともに、緑化を推進します。
- 鷺別岬の良好な環境の保全・活用を図ります。

III. 暮らしを支える交通環境の形成

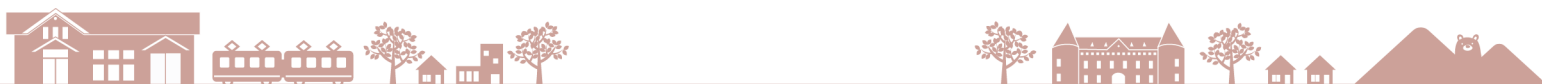
- 誰もが安全に通行できる歩道の整備を進めます。
- 鉄道横断立体交差について検討します。

IV. 安全・安心で快適な住環境の整備

- 傾斜地に造成された宅地では、危険なよう壁などの改善指導・勧告を行い、安全確保に努めます。
- 線路の存在を考慮し、地域の一体性に配慮したまちづくりを行うとともに、避難経路の確保等を行い、防災力の向上を促進します。
- 移転する消防本署が円滑に機能するよう、周辺の整備に努めます。

V. 魅力ある景観の形成

- 国道36号沿いを『景観軸』として位置づけ、緑化などのまちなみ景観形成を進めます。
- 道道上登別室蘭線沿いは、魅力ある沿道型サービス地区となるように、景観形成を進めます。
- 公共施設の緑化を推進します。



序章 はじめに

1章 登別市の概要及び現況と課題

2章 理念と目標

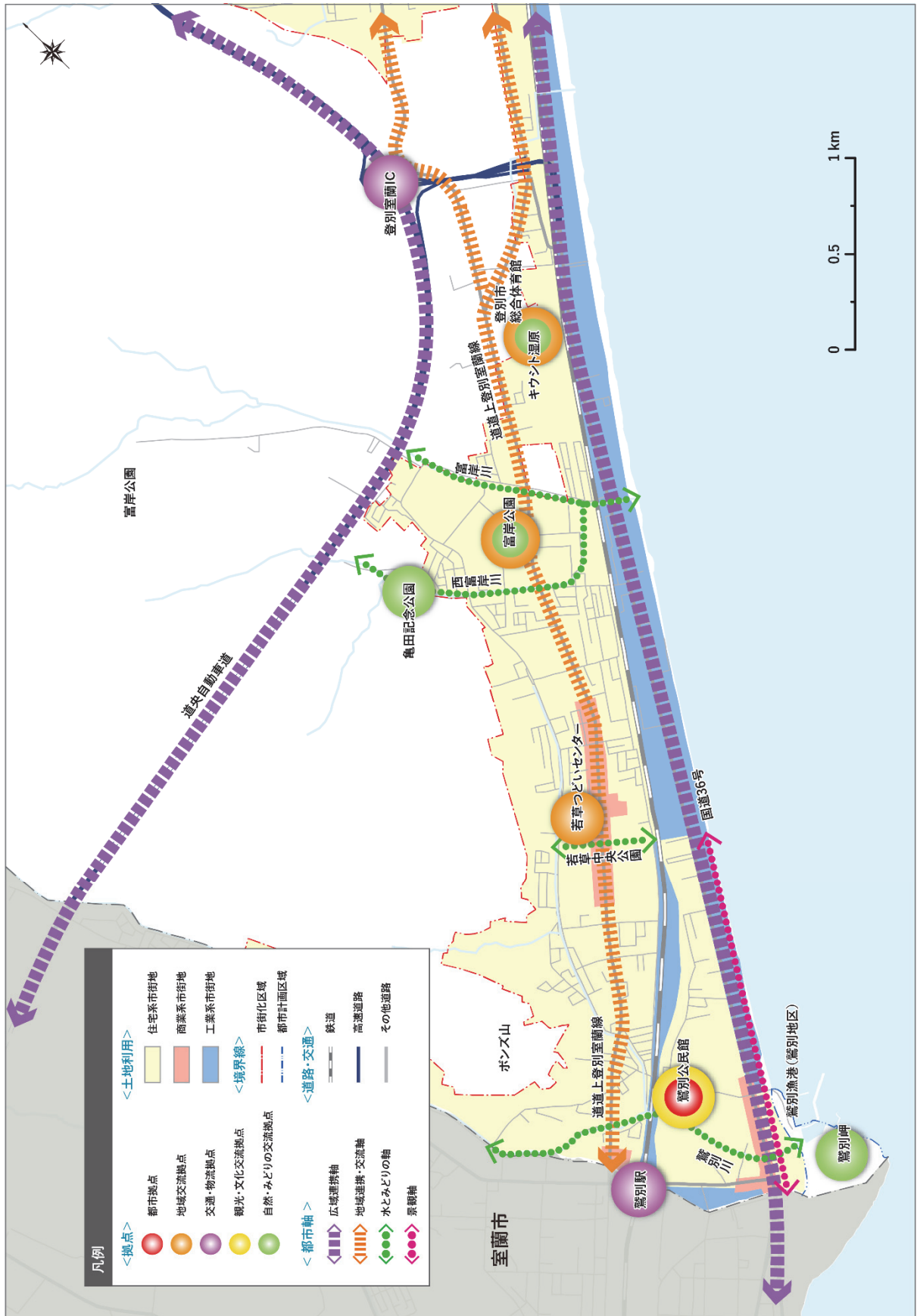
3章 全体構想

4章 地域別構想

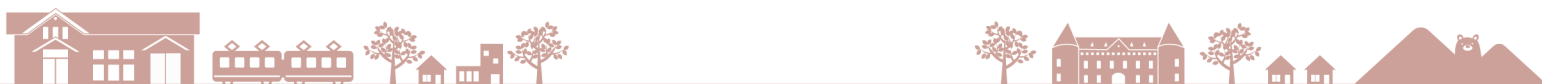
5章 計画実現化に向けて

参考資料

用語解説



地域別構想図（登別地域）



4. 幌別地域

(1) 地域の特徴と市民の意見

① 地域の特徴

◆地域生活

- 市役所や金融機関といった公共施設等が集まっており、登別市の行政サービスの中心地域です。
- 幌別駅周辺には大小さまざまな商業施設が集積しています。

◆地域資源

- まちなかを流れる胆振幌別川や来馬川、幌別ダムは地域のシンボルとなっています。
- 川上公園や郷土資料館などがある幌別ダム周辺は、登別市のレクリエーションの場であり、美しい景観は市民から親しまれています。
- 幌別市街地の背後にある札内町・来馬町には、優良な農地が広がっています。
- 白石城を模して建てられた郷土資料館では、両市の歴史的つながりを学ぶことができ、宮城県白石市との姉妹都市交流のシンボルとなっています。

② 市民会議における主な意見

- 市役所などの公共施設が多い。
- 交通の面から見ても利便性が高くなっている。
- 岡志別の森運動公園は、スポーツ・レクリエーション施設の中でも多くの市民が利用している。
- 川上公園と郷土資料館を併せて「みどりと歴史」として機能させることが望ましい。
- 地域に点在している空き地、空き家、空き店舗を利活用していくべきである。また、閉校した学校跡地の利活用も考える必要がある。



(2) 幌別地域のまちづくりの取組

I. 地域の生活や交流を支える拠点形成

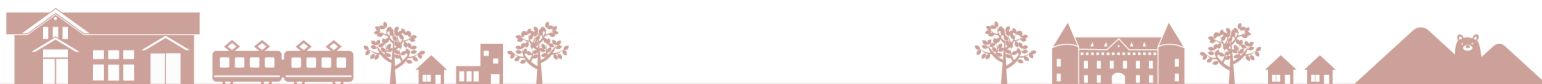
- 市役所や金融機関などが集積していることから、これらの公共施設等を活かした都市の中心にふさわしいまちづくりを進めます。
- 公共施設の建て替えにあたっては、周辺環境との調和に配慮し、用途地域の見直しや地区計画等の活用により、集約化を図ります。
- 地域コミュニティ施設の整備や既存施設の活用・統廃合により、市民が気軽に集える交流の場の整備や充実を図ります。
- 道道上登別室蘭線、道道登別室蘭インター線、道道弁景幌別線などの幹線道路沿いには商業施設の充実を図ります。
- 幌別駅周辺の地域商業エリアでは、賑わいある商業地形成を進めます。
- 市役所は災害発生時の対応及び復旧・復興の中核となる防災拠点施設に位置づけられていることから、建て替えにあたっては津波災害警戒区域外に位置していることに加え、市民の利便性向上の観点からできるだけ中心部に位置している必要があるため、これらの条件に適合し大規模な敷地を有する旧陸上競技場及びその周辺の用途地域を変更し、災害に強い庁舎の建設を進めます。

II. 地域資源の活用

- 胆振幌別川、来馬川、岡志別川を『水とみどりの軸』として位置づけ、樹木の植栽や散策路の整備を進めるとともに、親水性に配慮した川づくりを進めます。
- 海辺の空闲地等は、人々の憩いの場として活用を図ります。
- 鉾山町では、登別市ネイチャーセンターふおれすと鉾山を拠点として活発な自然体験・学習の取組が展開できるよう整備を進めます。
- 札内町、幌別ダム付近は、自然体験・学習を可能とするエリアとして活用を促進します。特に、登別市の多様な歴史を紹介する郷土資料館や文化伝承館が賑わいの場となるよう、ボランティア団体を中心としたさまざまな体験学習や展示の充実を図るとともに、市民のみならず観光客への幅広い周知を行います。
- 岡志別の森運動公園、新川公園、川上公園及び郷土資料館等をレクリエーション・学習の場として活用します。
- 桜木町の学校跡地については、住宅地としての土地利用を基本としますが、主要な幹線道路沿いに位置し登別室蘭インターチェンジにも近接しており、幌別地域における市街地の空洞化や生活利便性の向上、賑わいの創出といった地域が抱える課題解決に加え、流通機能の向上や雇用の創出にもつながることから、周辺環境との調和に配慮しながら用途地域の見直しや地区計画等の活用により、生活利便施設や流通業務施設の立地を促進します。

III. 暮らしを支える交通環境の形成

- 国道 36 号の機能向上が図られるよう、関係機関に要請します。
- 市街地の主要な道路などには、道路標識や誘導標識などを設置し、わかりやすいまちを目指します。
- 幌別駅の自由通路は誰もが安全・安心に使える通路となるよう改善策を検討します。
- 誰もが安全に通行できる歩道の整備を進めます。



序章
はじめに

1章
登別市の概要
及び現況と課題

2章
理念と目標

3章
全体構想

4章
地域別構想

5章
計画実現化に向けて

参考資料

用語解説

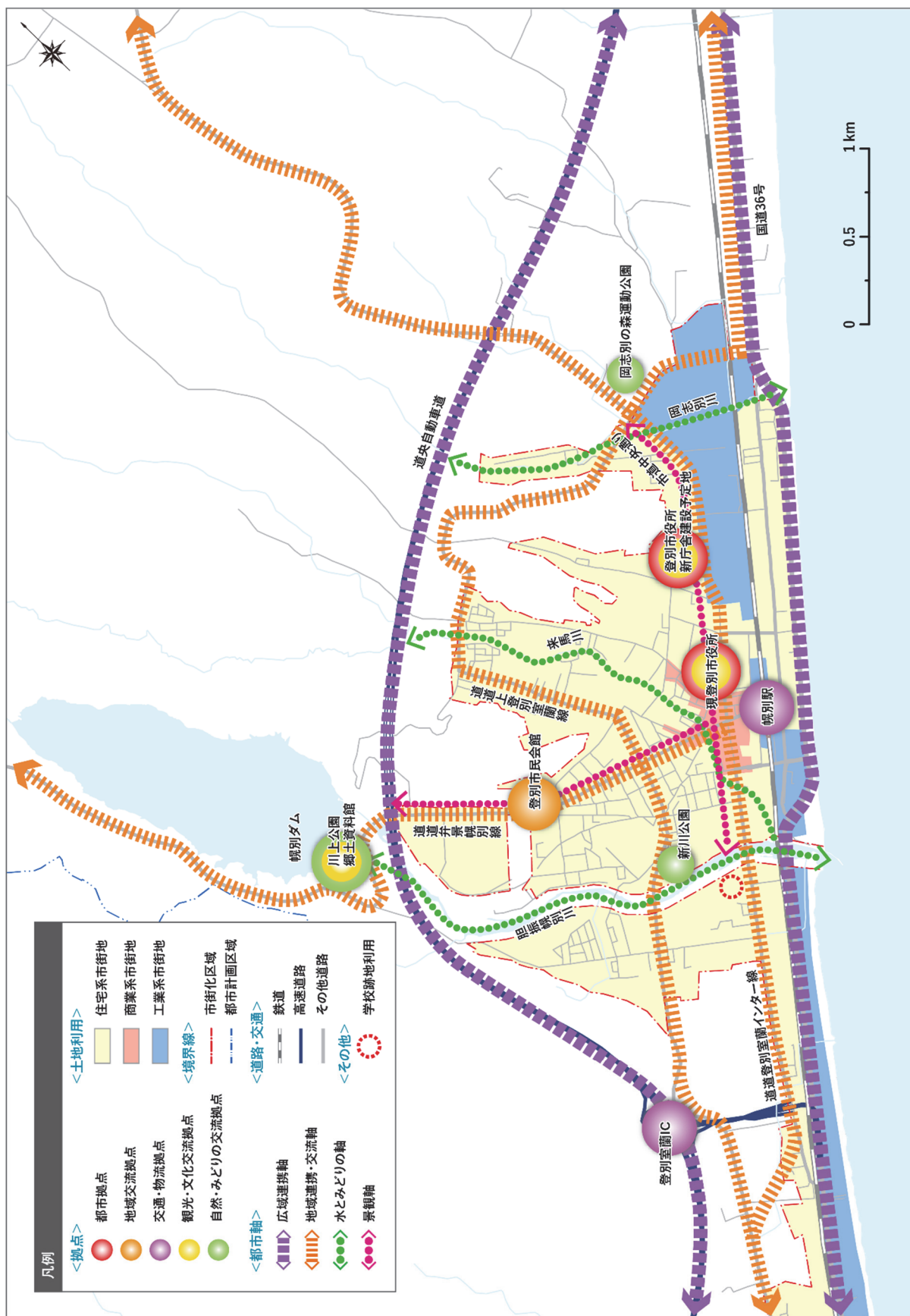
IV.安全・安心で快適な住環境の整備

- 消防や救急活動、避難行動を妨げる袋小路や狭あい道路の改善に努めます。
- 線路の存在を考慮し、地域の一体性に配慮したまちづくりを行うとともに、避難経路の確保等を行い、防災力の向上を促進します。
- 急傾斜地に接する片倉町などの住宅地については、土砂災害を未然に防止するため、法面を保護するなどの適切な対策工事を進めます。

V.魅力ある景観の形成

- 道道登別室蘭インター線、道道弁景幌別線、市道中央通り沿いを『景観軸』として位置づけ、緑化などまちなみ景観形成を進めます。
- 街路ごとに樹種の統一を図り、個性をもった街路とします。
- 幌別ダム周辺の景観とみどりの保全に努めます。
- 幌別駅周辺では、人々の集いの場にふさわしい花壇づくりを進めます。
- 公共施設の緑化を推進します。





地域別構想図（幌別地域）

序章

はじめに

1章 登別市の概要
 及び現況と課題

2章 理念と目標

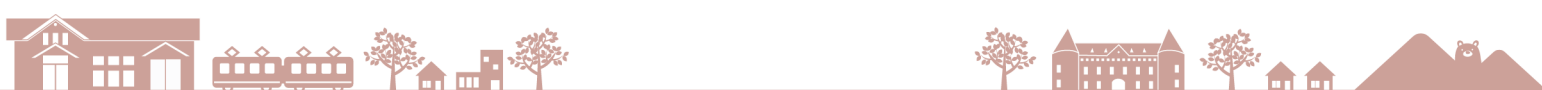
3章 全体構想

4章 地域別構想

5章 計画実現化に向けて

参考資料

用語解説



序章 はじめに

1章 登別市の概要及び現況と課題

2章 理念と目標

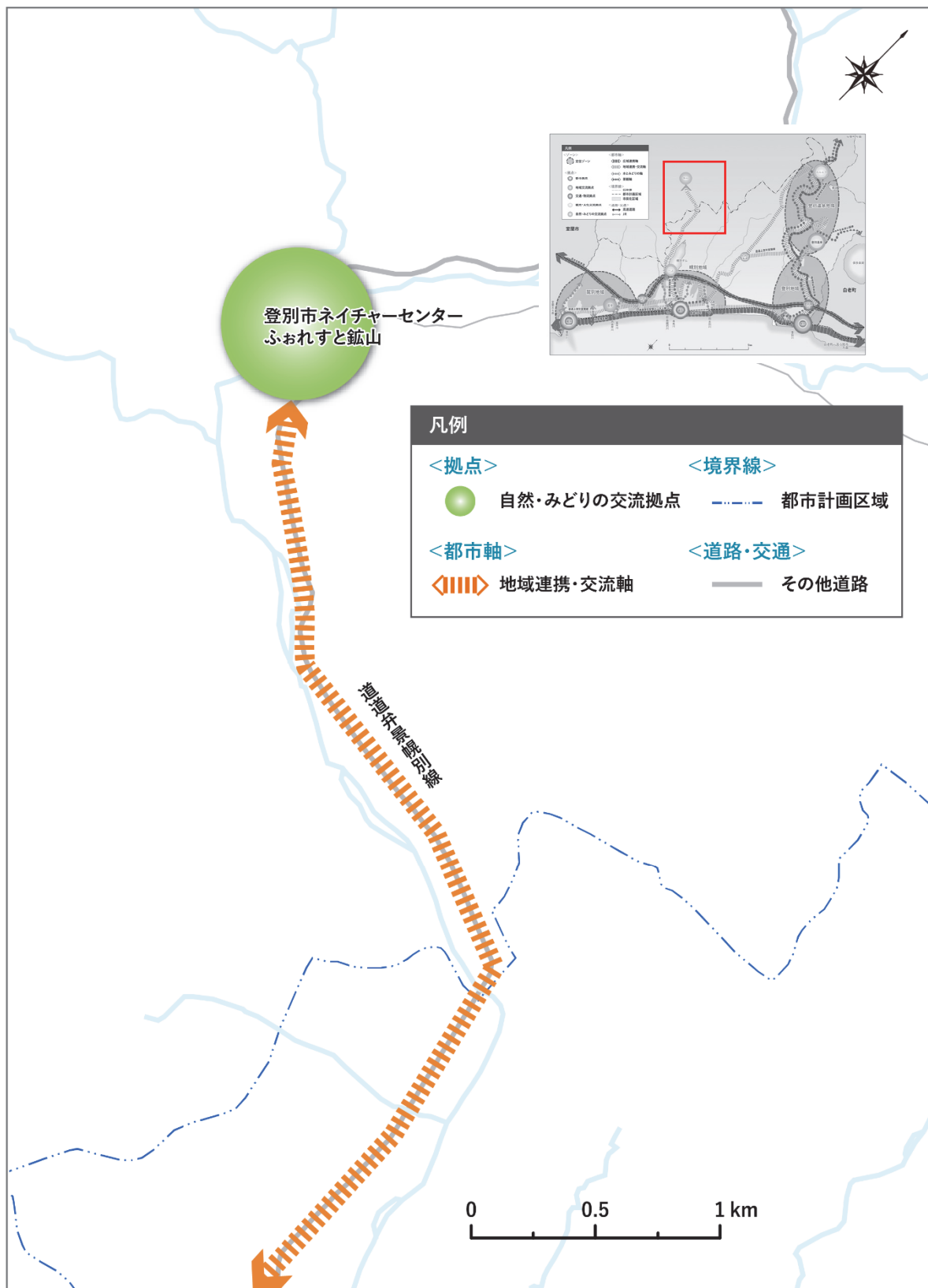
3章 全体構想

4章 地域別構想

5章 計画実現化に向けて

参考資料

用語解説



地域別構想図（幌別地域（鉱山町））



調整用ページ

序章

はじめに

1章
登別市の概要
及び現況と課題

2章
理念と目標

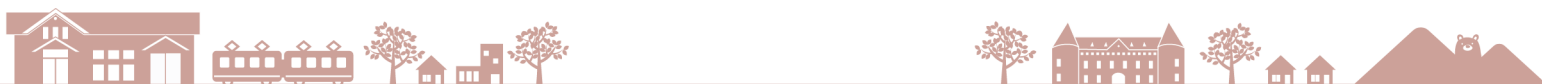
3章
全体構想

4章
地域別構想

5章
計画実現化に
向けて

参考資料

用語解説



5. 登別地域

(1) 地域の特徴と市民の意見

① 地域の特徴

◆地域生活

- 登別観光の玄関口としての役割を果たす地域です。
- 住宅地はみどりが多く閑静な佇まいをみせている地域です。
- 金融機関や病院、スーパーなどの生活に必要な施設が揃っており、コンパクトなまちとして機能しています。

◆地域資源

- 市の玄関口に位置する登別ビーチパーク（登別マリンパークニクス）がまちのシンボルとなっています。
- サケが遡上する登別川やアイヌ民族の伝承が残るフンベ山※が地域のシンボルとなっています。
- 鷺別漁港（富浦地区）や登別漁港があり、海を身近に感じられる地域です。

※フンベ山：登別漁港の近郊にあり、アイヌ民族の伝承が残るほか、過去には登別石が採掘されていました。現在も散策などで地域に親しまれています。

② 市民会議における主な意見

- 医療施設周辺を福祉ゾーンとして位置づけてはどうか。
- 湿地と公園を連携して整備していけると賑やかになるのではないか。
- 地域の一体性が大事である。
- 漁港や海岸を整備するべきである。
- 災害時の避難路として利用できる代替路を確保するべきである。
- 登別観光の玄関口として景観の整備に力を入れていくべきである。
- 銀のしずく記念館がある。



(2) 登別地域のまちづくりの取組

I.地域の生活や交流を支える拠点形成

- 登別駅前広場は、登別観光の玄関口としての魅力を高めるとともに、複数の交通手段の乗り換え・乗り継ぎ施設の機能を充実させ、交通結節点としての機能強化を図ります。
- 医療施設を活かした土地利用を進めます。
- 地域内外の交流の場として、既存施設を活用するなど地域コミュニティ施設の整備・充実を図ります。
- 登別駅を中心とした道道登別停車場線沿いの地域商業エリアでは、市街地再開発事業や地区計画等の活用により、登別観光の玄関口としてふさわしい賑わいある商業地形成を進めます。

II.地域資源の活用

- 登別川を『水とみどりの軸』として位置づけ、川辺のみどりの保全に努めます。
- 水芭蕉が群生しているのぼりべつ自然緑地を保全します。
- 登別漁港及び周辺の海洋性レクリエーションを楽しめる施設の整備を進めます。

III.暮らしを支える交通環境の形成

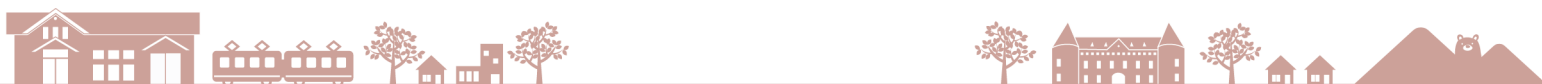
- 道道登別停車場線については、良好なまちなみ景観形成に加え、街路空間の安全性確保や防災性能の向上を図るために、無電柱化を推進します。また、新たな賑わい創出を図るために、沿道の飲食店等が自由に利活用できるオープンスペースを確保するなど、歩行者がより安心・快適に滞留・回遊できる街路空間への再構築を検討します。
- 国道36号の機能向上を図るよう、関係機関に要請します。
- 誰もが安全に通行できる歩道の整備に努めます。

IV.安全・安心で快適な住環境の整備

- 消防や救急活動、避難行動を妨げる袋小路や狭あい道路の改善に努めます。
- 避難経路の確保等を行い、防災力の向上を促進します。

V.魅力ある景観の形成

- 国道36号、道道洞爺湖登別線、道道登別停車場線沿いを『景観軸』として位置づけ、緑化などまちなみ景観形成を進めます。特に道道洞爺湖登別線沿いは、桜並木などを活かした沿道景観を形成します。
- 公共施設の緑化を推進します。



序章 はじめに

1章 登別市の概要
及び現況と課題

2章 理念と目標

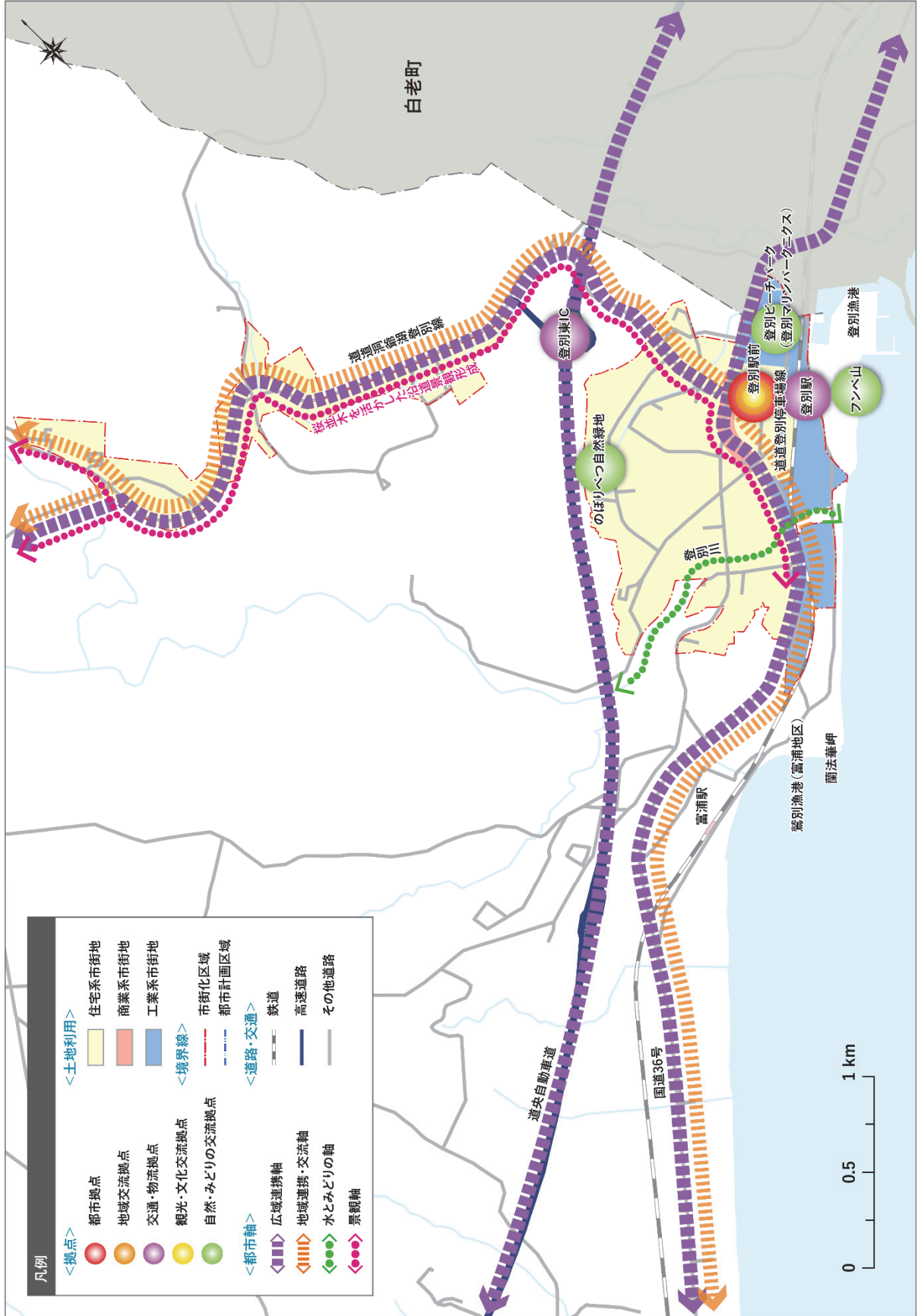
3章 全体構想

4章 地域別構想

5章 計画実現化に向けて

参考資料

用語解説



地域別構想図（登別地域）



6. 登別温泉地域

(1) 地域の特徴と市民の意見

① 地域の特徴

◆地域生活

- この地域は山々に囲まれており、登別温泉町では狭あいな市街地に、大小さまざまな宿泊施設や商店、住宅が混在しています。

◆地域資源

- 支笏洞爺国立公園内に位置し、ホテルや旅館が建ち並び温泉街が形成され、国内外から年間約 400 万人の観光客が訪れる北海道を代表する観光地となっています。
- 登別温泉は 9 種類もの温泉が湧出していることが大きな特徴であり、地獄谷、原始林、大湯沼などの景勝地が観光資源となっています。
- カルルス町は北海道で初めて「国民保養温泉地」に指定されたカルルス温泉があり、湯治客や登山・スキーなどを楽しむ客が訪れている森の中の静かな温泉郷です。
- のぼりべつ文化交流館は登別市の歴史や文化を紹介する施設として地域住民や観光客に親しまれています。

② 市民会議における主な意見

- 自然を生かしたまちづくりが必要である。
- 雪により道路が通行不可となると代替路が無い場合、孤立するリスクが高い。
- 登別温泉街は車通りが多く、歩行者や観光客の交通事故のリスクが高くなっている。
- 景観に配慮した温泉街のルールづくりが必要である。



(2) 登別温泉地域のまちづくりの取組

I. 地域の生活や交流を支える拠点形成

- 地域コミュニティ施設の整備や既存施設の活用により、市民や観光客が気軽に集える交流の場の充実を図ります。
- 登別温泉街の地域商業エリアでは、市民や観光客にやさしい賑わいある商業地形成を進めます。

II. 地域資源の活用

- カルルス町は、良好な泉質を活かした長期滞在型温泉地として、周辺のレクリエーション施設の充実を図ります。
- 交流施設については、民間施設などを活用し集積を図ります。
- 温泉を活用するなど、地域の特色を活かしたより魅力的な環境整備を進めます。
- 観光資源となっている自然環境の保全・活用を図ります。

III. 暮らしを支える交通環境の形成

- 温泉街については、極楽通りの整備や車両規制などにより、歩行者にやさしい空間にします。
- 国内外問わず観光客にわかりやすい道路空間となるよう、多言語化やピクトグラムを活用した案内図や誘導標識の充実を図ります。

IV. 安全・安心で快適な住環境の整備

- 浄化槽の設置などにより生活汚水の処理を進めます。
- 消防や救急活動、避難行動を妨げる袋小路や狭あい道路の改善に努めます。
- 災害発生時に市民や観光客が安全に避難できるよう、避難場所の確保や誘導看板の設置等に努めます。

V. 魅力ある景観の形成

- 道道洞爺湖登別線、道道倶多楽湖公園線沿いを『景観軸』として位置づけ、緑化などまちなみ景観形成を進めます。
- 温泉街については、自然と調和した観光地にふさわしい魅力ある景観形成を図ります。
- 四季を通して魅力あふれる景観が広がるオロフレ峠周辺の自然を保全します。
- クスリサンベツ川の景観形成を進めます。
- 温泉街ではプランターやハンギングバスケットを飾るなど、美しいまちなみ景観を演出します。
- 公共施設の緑化を推進します。



序章 はじめに

1章 登別市の概要及び現況と課題

2章 理念と目標

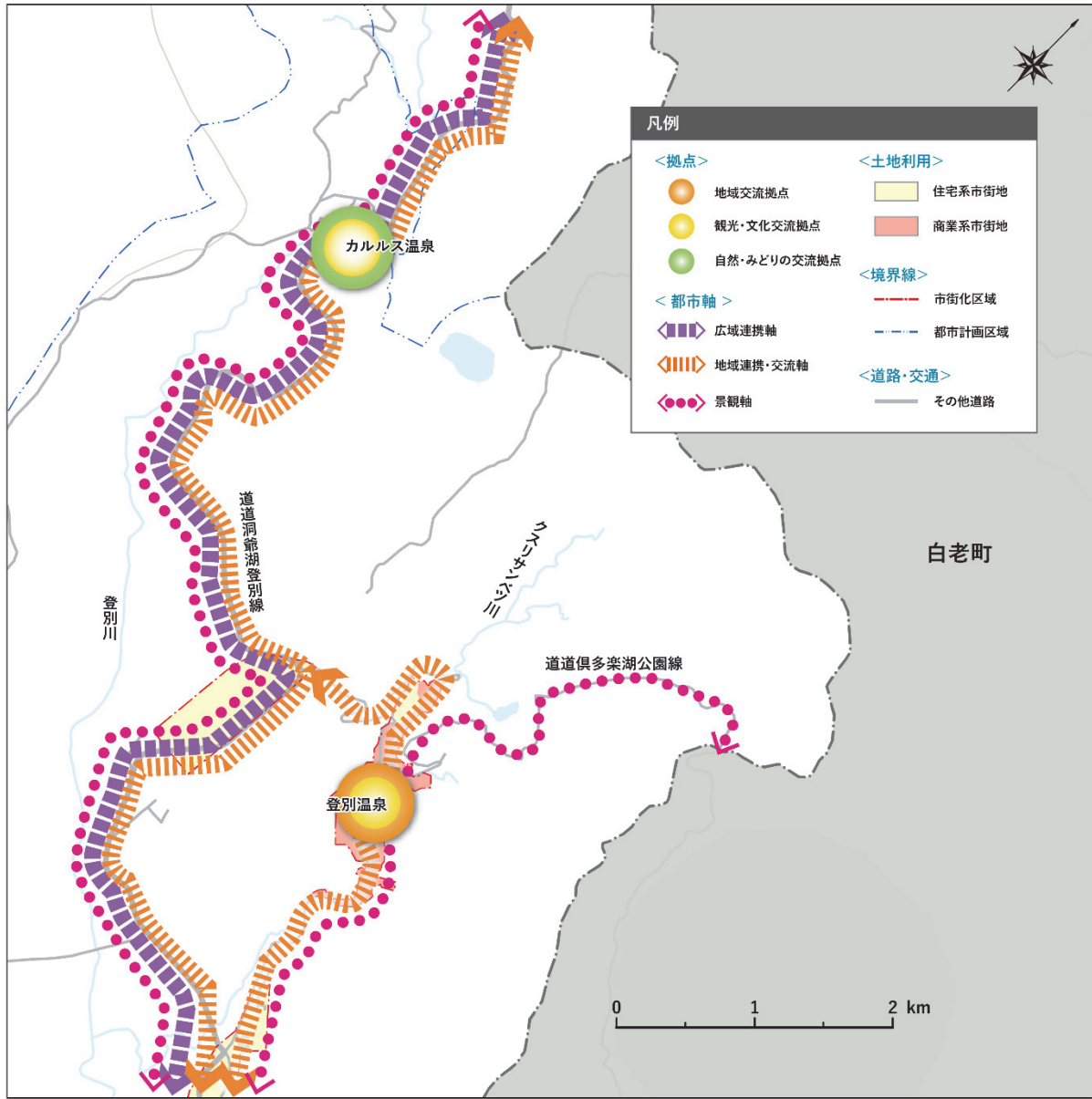
3章 全体構想

4章 地域別構想

5章 計画実現化に向けて

参考資料

用語解説



地域別構想図（登別温泉地域）



